

女子美術大学アート・デザイン表現学科 3年次・選択

メディアクリエーション演習 (〈インタラクティブ〉 特別授業)

第3回 (演習)

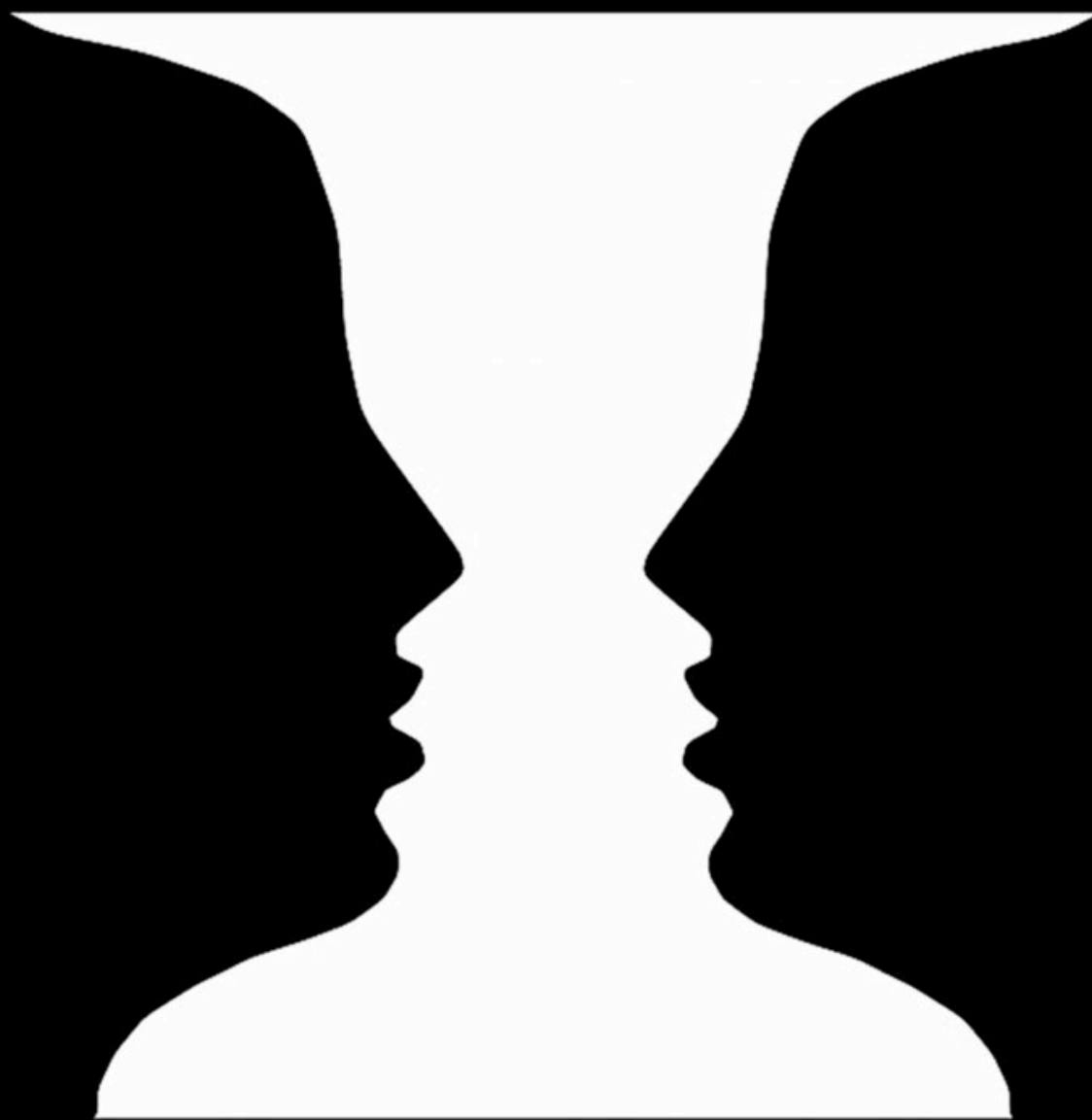
ミメーシス、詩、テキストに「沈む」

(2015-11-20)

担当： 石井 拓洋

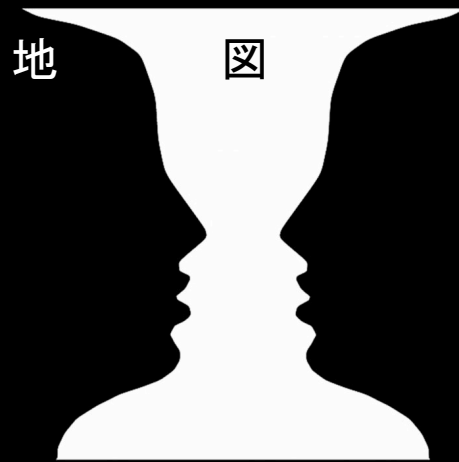
ishii05042@venus.joshiabi.jp

2015



「ルビンの壺」(多義図形)

<http://d.ibtimes.co.uk/en/full/1426245/rubins-vase.jpg?w=736>



- ・ ものごとは、一方に「図」があれば、かならずもう一方に「地」がある。
- ・ 「図」と「地」が共存して全体が成立する。「実体論」から「関係論」へ。
- ・ 「図」または「地」のうち、一旦いずれかに着目すると、もう一方が見え難くなりがちだ。
- ・ 「図」と「地」には優劣はない。存在としての両者の水準は同次元である。

Ex.) 強者と弱者、中心と周縁、役にたつものと役にたたないもの、新しいものと古いもの、順境と逆境、男と女、陽と陰、、、

「Text に沈むようにして読むこと、それは徹底的に教わることである。
しかし Text は考えつつ問う者にしか教えない。

それは或る意味で自問自答になる。それを少し広げる手がかりが
古くからの註解であり、ともに読む人の意見である。

しかし、また、text に沈まなくてはならない。
深く沈んで底流を知る者のみが、[※日常の生活へと] 浮かび上がったときに違う風景を見る。
それだけ進んだのであろう。

また [※ さらに再び] text に沈むようにして読まなくてはならない。
こうしてまた [※ Text から] 浮かびあがる。

このようにして形成されてくる風景に text の射程が見えてくる。」

「物心二元論」 (デカルト以降)



- 西洋中心主義
- 進歩主義
- 人間中心主義 (個人主義)
- 要素還元主義
- 機械論

各項目は相互に関わりあっている

啓蒙思想の特徴 : 「近代主義」の特徴

- **西洋中心主義**

西洋こそが世界で最も進んだ文明であるという考え

- **要素還元主義**

物事 (芸術を含む) の本質をさぐるには、本質以外の余計な要素を極力排除すべしとする考え

- **進歩主義**

新しいことであれば全て良いことだとする考え

- **人間中心主義**

人間は科学によって、自然を制御することができるとする

- **機会論**

人間は科学によって、自然を制御することができるとする

【なぜここで、いきなり 「詩」 なのか？】

- 世界の見方 (視点) を知る
- 詩こそ 「ミメーシス」 が反映したもののだから
 - (典拠) アリストテレス 『詩学』 (前4世紀)
- 「ムーシケー」としての統合、調和的な音楽の再考
 - 近代的 「自律音楽」、「自律芸術音楽」 批判の立場から
- 音楽は本来、詩 (ことば) と 共にあったと考えるから
 - 近代的 「自律音楽」、「自律芸術」 批判の立場から

近代を乗り越える視点 とは？ （たとえば、、、）

- 進歩主義の再考
- 二元論の克服を試みる視点 (共生・共存の視点)
- 人間中心主義、西欧中心主義への批判的検討
- 人間と自然の関係に関する再考
- マイノリティに対するまなざし
- 「実在論」から「関係論」へ

などなど、、、

近代を乗り越える視点 とは？ （金子みすゞさんの事例）

小澤次郎氏 (2011) 「金子みすゞの詩にみる構造：二項対立を超えた荘厳世界」
詩と試論研究会編 『金子みすゞ：み仏への祈り』 勉誠出版、pp.11-30.

上記のすぐれた論文をはじめ、多くの識者らは、金子みすゞの詩の世界に
近代的な二項対立を超える世界へのまなざしを指摘している。

以降では、この論文をもとに、その内実を探ってみたい。

金子みすゞさんのまなざしを確認することには、
われわれは、女性の視点をいかした脱近代的なアプローチの視点の持ち方一端を
知ることができる点において大きな意義があると考えます。

大漁

朝焼小焼だ
大漁だ。
大羽鰹の
大漁だ。

浜は祭りの
ようだけど
海のなかでは
何萬の
鰹のとむらい
するだろう。

金子みすゞ



朗読：竹下景子『永遠に残したい日本の詩歌大全集1・金子みすゞ詩集』ポニー・キャニオン：PCCG-01281 (CD)、2012年発売。
画像：「写真AC」 <http://www.photo-ac.com/>

おさかな

海の魚はかわいそう。

お米は人につくられる、
牛は牧場で飼われてる、
鯉もお池で麩を貰う。

けれども海のおさかなは、
なんの世話にもならないし、
いたずら一つしないのに、
こうして私にたべられる。

ほんとに魚はかわいそう。

金子みすゞ



蓮と鶏

金子みすゞ

泥のなかから
蓮が咲く。

それをするのは
蓮ぢやない。

卵のなかから
鶏が出る。

それをするのは
鶏ぢやない。

それに私は
気がついた。

それも私の
せいぢやない。

こころ

金子みすゞ

お母さまは
大人で大きいけれど
お母さまの
おこころはちいさい。

だって、お母さまはいいました、
ちいさい私でいっぱいだって。

私は子供で
ちいさいけれど
ちいさい私の
こころは大きい。

だって、大きいお母さまで、
まだいっぱいにならないで、
いろんな事をおもうから。

朗読：竹下景子『永遠に残したい日本の詩歌大全集1・金子みすゞ詩集』ポニー・キャニオン：PCCG-01281 (CD)、2012年発売。
画像：「写真AC」<http://www.photo-ac.com/>

私と小鳥と鈴と

金子みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちつとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面を速くは走れない。

私がかからだをゆすつても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄はしらないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがつて、みんないい。



ミメーシス mimesis 模倣

ミメーシス mimesis 模倣

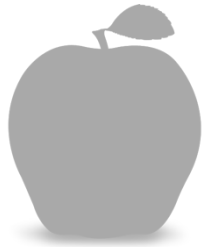
- ・「西洋近世 までの 芸術論における中心概念となった」

[アリストテレスによれば]

- ・「ミメーシスは古来より自然と人間の関係の基本的形式であった」とした。
- ・ 模倣したり模倣されたものを見ることは、本能的な『生の喜び』をもたらす。
- ・ 模倣は、喜びと、「生のありよう」のあらたな「学び（知）」をもたらす。
- ・ 模倣は、「人間が人間らしくなっていくための根本的方法である」という。
- ・ ギリシャ悲劇こそが「人間の行為と生のミメーシス」

■ プラトンの (芸術) 批判 (プラトン『国家』)

「アイデア界」



林檎のアイデア
(アイデア = 物事の真理)



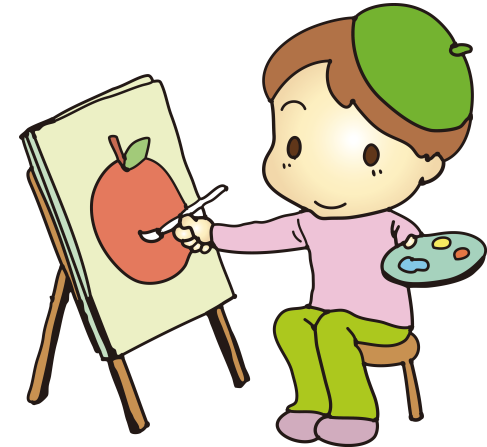
「現実界」



林檎の**アイデアの模倣**
(真理のコピー)



(芸術的なもの)



林檎の**アイデアの模倣の模倣**
(真理のコピーのコピー。
まがいものを真理と錯覚させる輩)

(芸術) は模倣の模倣 (※プラトンの芸術批判)。

**(芸術) 家は「影像 (※現実世界の林檎) を模倣する人々であって、
真理そのものには触れていない」**

[小田部 p.10 から プラトンの言葉を引用]

■ アリストテレス における 技術 (プラトンを批判し、模倣において技術の価値を語る。『自然学』、『詩学』)

「現実態」



(技術, 芸術的なものを含む)



現実の林檎 (自然の事物) =
「形相」(林檎的性質) + 「質料」(林檎の素材)
(現実の林檎それ自体で合目的的統一性をもつ)

現実の林檎 (自然) の模倣
(統一体・真理 という普遍性を表現する技術)

「模倣の技術は、統一ある対象を描写することによって、
それ自体統一性を備えたものとなりうる」

そしてまた、技術 (※ 後に芸術といわれるような営みを含む) とは、
自然の中の「普遍的な事柄」を語る価値ある技術。

[小田部 p. 16-17]

ジャン=ジャック・ルソー (*Rousseau*, 1712 – 1778, 仏) 思想家、作曲家。
『言語起源論』 (1781年没後刊行) で 言語の模倣による音楽を提唱した。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Allan_Ramsay_003.jpg

「たとえ音と音との関係や、和声の法則を、千年も計算したところで、この芸術をどうやったら模倣の芸術にすることができるだろうか (※いやできない)。

そのいわゆる 模倣の原理がどこにあるのだろうか [略]。

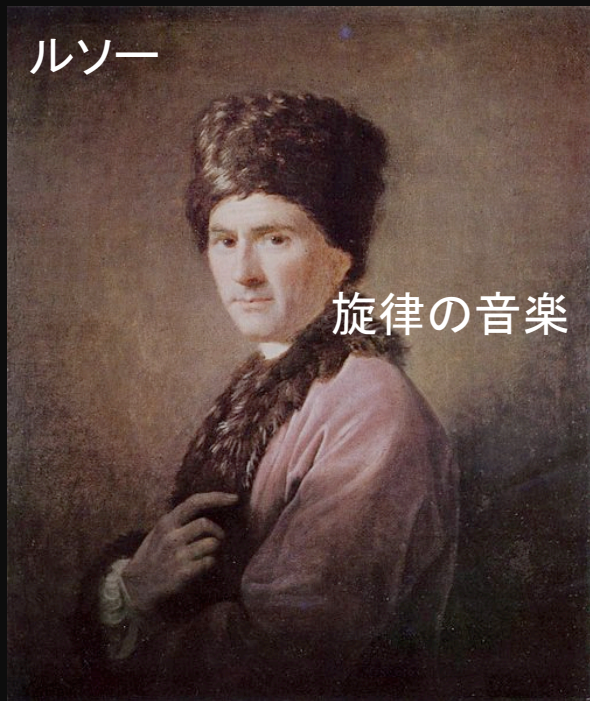
旋律は音声の抑揚を模倣することによって、嘆きの声、苦しみや喜びの叫び、脅し、うめき声を表している。情念の音声的な記号はすべて、旋律の領域に属している (※和声の領域ではない。ルソーによれば)。

旋律は言語のアクセントと、魂の動きに対するそれぞれの固有な語法の中にあるこった言い回しとを模倣する。それはたんに模倣するだけでなく、語りかける。

[略] 生き生きとして激しい、この情熱的な言語 (※音楽の旋律) は、話言葉そのものよりも百倍も力を持っているのである。

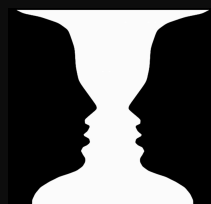
ここから音楽的な模倣の力が生まれ、ここから感じやすい心に対する歌の支配力が生まれるのである」

ルソー



旋律の音楽

Vs.



ラモー



和声の音楽

「1752年以降、ルソーとラモーとの間に繰り返される中傷合戦とも言える論争は、最終的、音楽の基礎であり音楽の表現力を決定するのは、**旋律かそれとも和声か**、という問題に集約されていく」
〔片山、関本、安川 32頁〕

この論争後、ラモーの和声論が勝利し、ルソーの音楽模倣論は忘れ去られる。

※ これもまたしかし、「二項対立」での同次元の論争にすぎないのでは、、、

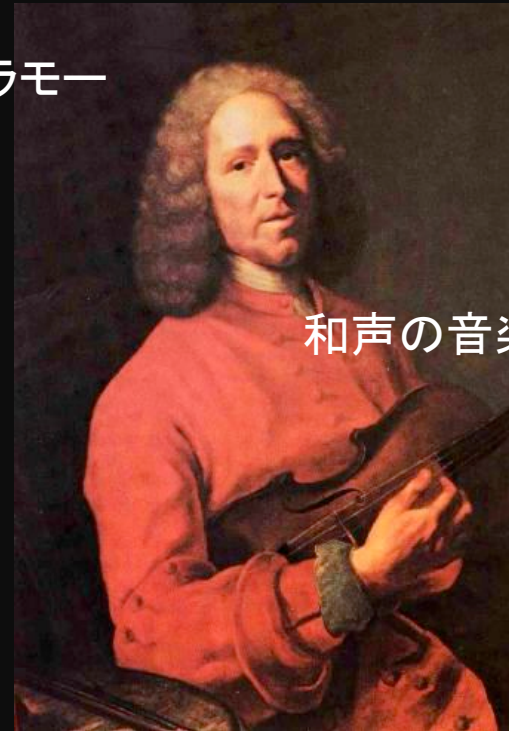
ルソー



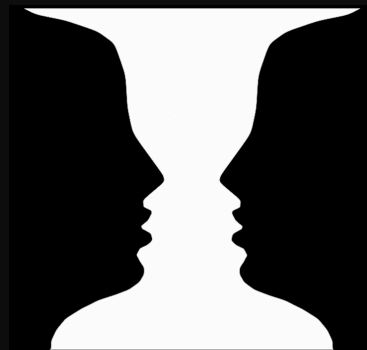
旋律の音楽

Vs.

ラモー



和声の音楽



※ これはしかし、「二項対立」での同次元の論争にすぎなかったのでは、、、

木

お花が散って
実が熟れて

その実が落ちて
葉が落ちて

それから芽がでて
花が咲く。

そうして何べん
まわったら
この木は御用が
すむかしら。

金子みすゞ



音の3要素「音高、音の強さ、音色」。

リズム、構成感、内容の反映

例

お花が散って



実が熟れて、



旋律線
イメージ

その実が落ちて



葉が落ちて、



金子みすゞ「木」冒頭2連より

- ・「詩」と「音」と「映像」の共生の実験
- ・ 作品内部でのメディア間のインタラクティブ

(※ 一つのイメージとして)

【Youtube】宮沢賢治 21世紀映像童話集 やまなし

<http://www.youtube.com/watch?v=JcaGlc7hYlc>

啓蒙思想の特徴 : 「近代主義」の特徴

- **西洋中心主義**

西洋こそが世界で最も進んだ文明であるという考え

- **要素還元主義**

物事 (芸術を含む) の本質をさぐるには、本質以外の余計な要素を極力排除すべしとする考え

- **進歩主義**

新しいことであれば全て良いことだとする考え

- **人間中心主義**

人間は科学によって、自然を制御することができるとする

- **機会論**

人間は科学によって、自然を制御することができるとする

主な参考文献・さらなる知識のために

小田部胤久 (2009) 『西洋美学史』 東京大学出版会。

佐々木健一 (2004) 『美学への招待』 中公新書。

アリストテレス、ホラーティウス 『詩学・詩論』 松本仁助、岡道男訳、岩波文庫 青 604-9。

ルソー (1781=1970) 『言語起源論』 小林善彦訳、現代思潮社。

松宮秀治 (2008) 『芸術崇拜の思想』 白水社。

以上